



平成29年度

JCAS次世代ワークショップ企画

企画責任者:鈴木 遥  
(総合地球環境学研究所)

## 地域研究を活かしたフィールド体験型教育の創出: インドネシアと日本で行う環境教育プログラムを事例に

### 目的

日本国内の大学だけでなく、インドネシアの大学においても、環境教育やフィールド体験型教育の重要性が認識され、こうした教育プログラムを充実させることが求められている。

本企画は、インドネシア地域研究や環境教育に携わっている若手研究者が中心となり、これまで国内外で関わってきた研究・教育活動を踏まえ、研究と実践活動をつなぐ一環として、地域研究と環境教育とを連動させることの意義や、地域研究の教育における新たな可能性を議論するワークショップを開催するものである。

### 参加者

鈴木 遥(総合地球環境学研究所)

梶田諒介(総合地球環境学研究所)

古川文美子(神戸大学人間発達環境学研究科)

Kirmizi(リアウ大学国際交流センター)

Haryono(リアウ大学教育学部)

清野未恵子(神戸大学人間発達環境学研究科)

アドバイザー:岡本正明(京都大学東南アジア地域研究研究所)

### 本企画の位置づけ

本企画は、インドネシアと日本において実施した双方向の環境教育プログラムを事例として、議論を行った。

2017年7月28日

事前打ち合わせ

場所:総合地球環境学研究所

2017年8月21日～8月30日

環境教育①:Orang Lautの文化と学校教育の現状

参加者:神戸大学生8名、リアウ大学生5名、スタッフ4名

場所:インドネシアリアウ州インドラギリ・ヒリル県

2017年9月2日～9月10日

環境教育②:泥炭地火災・修復の現状と人々の生業

参加者:神戸大学生5名、リアウ大学生5名、スタッフ3名

場所:インドネシアリアウ州メランティ諸島県

2017年9月27日～10月1日

環境教育③:環境創造型農業と循環型システム

参加者:神戸大学生15名、リアウ大学生5名、スタッフ2名

場所:神戸市、篠山市

2017年10月1日

本ワークショップ(参加者32名)

場所:神戸大学大学院発達人間環境学研究科 大会議室

# Creation of Field Education with Area Studies: Viewed from Environmental Educational Program in Indonesia and Japan

日時 2017年10月1日(日) 場所 神戸大学大学院発達人間環境学研究科 大会議室  
後援 総合地球環境学研究所、神戸大学人間発達環境学研究科

## プログラム

### ◆趣旨説明

1. Introduction  
Haruka Suzuki (Research Institute for Humanity and Nature)

### ◆学生の成果発表

2. “Field Study in Riau”  
Student group presentation (Kobe University)
3. “Experience of Environmental Education in Sasayama and Kobe”  
Student group presentation (Universitas Riau)

### ◆コーディネータスタッフとして関わった研究者の発表

4. “Between Area Studies and Environmental Education Viewed from Field Study in Riau, Sasayama, Kobe”  
Fumiko Furukawa (Kobe University)
5. “Field Education on Area Studies”  
Ryosuke Kajita (Research Institute for Humanity and Nature)
6. “Environmental Education and Area Studies Viewed from Summer School 2017 in Riau, Indonesia”  
Haruka Suzuki (Research Institute for Humanity and Nature)

7. “International Program of Field Education in Universitas Riau”  
Kirmizi Bin Untung Ritonga (International Office, Universitas Riau)

8. “Orang Laut in Concong Luar, Indragiri Hilir, Riau”  
Haryono Seri Bijawangsa (Faculty of Teacher Training and Education, Universitas Riau)

## 議論

### ◆地域研究の視点を活かした環境教育プログラムとは

- 地域社会で直面した出来事を取り込む柔軟なスケジュール
- 環境問題に関連する地域社会的背景を含めた視点
- 政府、教育研究機関、NGO、地域住民などのステークホルダーとの協働
- 学生の気づきが理解につながるプログラム構成  
環境問題→フィールドでの気づき→問題の再検討→問題への理解促進
- 参加者の興味に応じた柔軟なプログラム

### ◆地域研究における実践と教育

- 地域の課題に関する既存のガバナンスの突破口となる可能性を秘める
- 地域の課題に取り組むための試行錯誤の機会として、ステークホルダーによって活用される

## 今後の展開

- 試行錯誤を繰り返しながら環境教育プログラムを継続
- 地域研究と環境教育に関わる研究者ネットワークを構築
- 投稿論文として成果を公表
- 報告書のとりまとめ



ワークショップの様子